

虹の町をめざして

「虹の町・たるい」の実現に向けて、様々な政策や活動を提言・推進していきます。これまでの「子孫の代まで垂井を繋ぐ」という志を変えることなく、時代の流れに合わせて目指す方向性を整理しました。改めて、私が目指す3つの方向性についてご紹介いたします。

地域の持続可能性を向上させる

出産・子育て・孫育て環境、教育環境の充実

町の未来を担う子ども達や保護者の方々が安心して子どもを生み育てられるように、出産・子育て支援や3世代・地域社会での子育て支援体制の構築を推進します。また子ども達がAI（人工知能）やロボットが普及した社会でも活躍できるよう、キャリア教育や小中学校で2020年に開始予定のプログラミング教育への対応に注力します。

産業振興と、魅力ある企業の誘致やスタートアップの支援

元気な地域や魅力ある地域には、必ず魅力のある企業や働く場が存在しています。地域が元気であるために、垂井町で長年頑張っている企業の支援や、起業する方々への支援を通して産業の活性化を支援します。

交流人口の拡大と移住・UIターン促進

交流人口の拡大により垂井町の認知度を上げ、ファンを増やすことでふるさと納税の増額や来町者の増加、町内消費の拡大を支援します。並行して郷土愛の醸成にも取り組み、町に対する誇りや愛着を持つ方々を増やします。

みんなに居場所と役割を

町内7地区の個性を活かした参加型まちづくりの推進

垂井町の大きな魅力の一つは個性豊かな7つの地区が存在することです。地域ごとの個性を生かしたまちづくりを推進し、より多くの方が地域活動に参加して地域に誇りと愛着が持てるまちづくりを推進していきます。

様々な立場（多様性）を尊重したまちづくり

東西文化の境界線上にある垂井町には様々な人が生活しています。志向やライフスタイル、考え方が多様化する中でそれぞれの立場を尊重したまちづくりを推進し、どんな人にも住みやすい多様性のある町を目指していきます。

遊休施設の活用による居場所づくり

居場所づくりに必要な「場所」の提供を、遊休公共施設や民間資産の活用とセットで考えていきます。老朽施設の場合は耐震化など様々な課題を解決がありますが遊休施設の活用を通して居場所づくりを推進していきます。

社会の助けが必要な人を全力で守る

防災防犯、もしもの時の安全を

高い確率で発生が予想されている東南海地震や水害、土砂災害など自然災害の脅威は年々増えています。まちづくり団体と連携して自然災害への備えをより一層充実させると共に、防犯対策の充実にも取り組みます。

子どもから高齢者まで、全ての方に安心を

近年は世代ごとに様々な社会課題を抱えています。子どもには学校のクーラー設置や社会参画の機会提供、現役世代には子育て支援、高齢者には健康寿命の向上など、全世代の方が安心して暮らせる環境を作っていきます。

設備と心のバリアフリー

身体障害や精神障害だけでなく、人に伝わらない障害を抱えている人もいます。福祉政策の充実による設備や制度面のバリアフリーを推進すると共に、教育や啓発の充実により全町民の心がバリアフリーになるように努めます。

議会活動報告

これまで垂井町議会で行ってきた活動についてご報告いたします

▶行政視察について

行政視察は年に一度、所属する常任委員会に関わる行政課題の解決策を研究すべく行われている調査視察です。今年には愛媛県今治市・香川県東かがわ市・徳島県三好市を訪問し、下記の案件について調査しました。以下に視察内容をご報告致しますのでぜひご覧ください。

▶愛媛県今治市「今治タオルプロジェクトについて」

今治市では明治時代からの地場産業である今治タオルをどのようにブランド化させていったのかを調査しました。今治タオルは今治タオル工業組合が主体となってブランド化を推進し、行政がそれをバックアップしています。直接的には著名なデザイナーである佐藤可士和氏との出会いがブランド化に成功した大きな要因ですが、今治市と四国経済産業局が人事交流を行っており、経産局員出向者がJAPANブランド育成支援事業への応募をタオル工業組合に持ち込んだ事が最初のきっかけでした。このように人事交流などで新たなアイデアを取り入れることの重要性を改めて感じました。

▶香川県東かがわ市「東かがわ市における地域コミュニティについて」

東かがわ市では「安心安全のまちづくり」「若者の定住・少子高齢化への取り組み」「地域協働」を市の基本構想として掲げ、垂井町と同じように小学校区単位でまちづくり協議会を設けています。行政としては「人づくり支援」「体制づくり支援」「拠点づくり支援」の3点を軸に地域活性化を支援しており、香川大学との域学（地域と大学）連携により大学生をまちづくりに参画させています。またコミュニティビジネスを興すことで補助金に頼らない事業運営と持続可能性の向上を目指すなど、地域の課題を地域で解決する仕組み作りの支援体制の明確化を行う必要性に気づきました。

▶徳島県三好市「サテライトオフィス誘致プロジェクトについて」

三好市は徳島県のサテライトオフィス（支店・営業所より小規模な事務所）誘致ツアーに参加していたベンチャー企業が地元雇用型のサテライトオフィス開設を決めたのがきっかけで積極的な誘致を開始しました。現在は東京や関西圏に本社を置く6社がオフィスを構えています。これにより賃金体系が都会と同等となり、大学進学で地元を離れた若者がUターンできる労働環境が整いました。年6回誘致セミナーを実施し、現地でお試し滞在できるような施設を整備するなど積極的な取り組みを行っています。移住者も増えており、継続的な活動で企業を誘致する重要性を感じました。

資質向上の活動

議員としての資質を向上させるために行っている活動についてご報告いたします

▶養老町議会との合同研修（相川左岸第1水源池・垂井町役場 新庁舎建設現場視察）

隣町である養老町議会とは毎年合同で議員研修を行っています。今年も更新中の相川左岸第1水源池と建設中の垂井町役場新庁舎の現状視察を行いました。第1水源池は不破中学校東側に位置し昭和34年から稼働していましたが、老朽化に伴う施設更新を行なっています。役場新庁舎の建設工事は、商業施設からの用途変更となるため、使用しない部分の解体が終わり、耐震補強のためのアウトフレームを設置する工事の準備段階でした。特に役場新庁舎の建設は垂井町の中心地が移動する一大事業ですので、随時工事の進捗状況をご報告していきたいと思っております。

